

「教員養成教育の評価等に関する調査研究」フォーラム

「教員養成教育の自律的『質保証』システムの始動」



東京学芸大学では、教員養成教育の質的水準の向上のため、平成22～25年度の4年間で「教員養成教育の評価等に関する調査研究」として教員の実践的指導力を養成するカリキュラムやそのための組織運営体制などの評価のあり方について調査研究を推進してきた。

最終年度の今年度は、4年間の成果を報告するため、3月9日にTKPガーデンシティ品川でフォーラム「教員養成教育の自律的『質保証』システムの始動」を開催し、学内外から合わせて145名が参加した。

第一部では村松泰子学長の挨拶に続き、筑波大学学長特別補佐徳永保教授が基調講演「教員養成教育機関の関係者による自律的質保証への期待」として、大学教育の質保証システム確立に向けたこれまでの取組みと本調査研究の持つ意義などを話された。引き続き大竹美登利東京学芸大学理事・副学長より本調査研究の概要説明、東京学芸大学佐藤千津准教授から本調査研究の成果である「教員養成教育認定基準」の作成と今年度行った試行評価についての報告、国立教育政策研究所渡邊恵子教育政策・評価研究部長から「教員養成教育認定基準」を基に実際に評価を行うためのマニュアル類及び組織についての提案がなされた。最後に東京学芸大学岩田康之教授が本調査研究の成果を基に来年度から実施する20大学程度の相互評価を中心とする新たな開発研究の活動予定について説明した。

それらを踏まえて第二部では、北海道教育大学玉井康之教授がコーディネータとなり、岩田康之教授のほか、京都教育大学小林稔教授、横浜市教育委員会平本正則教職員育成課長、玉川大学森山賢一教授をパネリストとして「教員養成教育のピア・レビューと質的向上」というテーマでパネルディスカッションが行われた。ここでは、大学と教育委員会との連携の重要性、ア krediyteshon・システムにおいても教員養成教育の開放制の原則を維持させる重要性、教員養成教育の多様性を尊重しつつシステムとしての一貫性を保つ必要性など活発な議論が交わされた。

3回目となる本フォーラムでは、過去最高の参加者（国公私立大学関係者、教育委員会関係者等）を得、本調査研究への関心が高まっていることが実感された。東京学芸大学では、本調査研究の成果を踏まえ、自律的な教員養成教育の質保証システムの確立に向けて、来年度以降は「日本型教員養成教育ア krediyteshon・システムの開発研究」を実施していく予定としている。